

# 「吉中＝笑顔で会える学校」をめざして

吉川中学校校長 遠藤 克俊



いよいよ令和5年度がスタートしました。今年度は新入生を82名も迎え、全生徒220名でのスタートとなりました。4月7日に入学式を行いました。新しい制服に身を包んだ1年生は、とても初々しく、凛々しく、そしてかわいかったです。当日は朝から雨が降るあいにくの天気でしたが、生徒たちのすがすがしい笑顔を見ていると、気分は晴天になりました。新入生を迎える2,3年生の態度も素晴らしく、温かい雰囲気の中で、希望に満ちた入学式になりました。

そして10日には始業式を行いました。始業式で生徒たちには、今年度も「笑顔で会える学校」をスローガンに掲げることが伝えました。日々、いろんな感情が沸き上がるでしょうが、「学校に来れば」「吉中にいたら」自然と笑顔になれる、そんな学校にみんなで行っていきましょうと話しました。その話を聞いてくれている生徒たちの顔は、みな意欲的に見えました。「今年度もこの子どもたちと周りにいる教職員たちとで、素敵な学校が作れる」と確信しました。

今年度は伝統ある吉川中学校の、校舎、グラウンド、体育館で生活する最後の年になります。来年度は、令和8年度開校予定の義務教育学校に向けての工事が始まるので、吉川中学校は光風台小学校に引っ越すのです。この吉川中学校で過ごす最後の年、生徒たちや教職員には、「何か思い出に残ることをやろう」と呼び掛けています。保護者の方々や地域の方々にも輪を広げて、何か記念になることをやりたいと考えています。昨年度は、スマホ教室等で地域貢献もでき、テレビや新聞でも取り上げていただきましたが、今年度もみんなで協力して、何か大きなことができると考えています。まだ具体的な構想はできていませんが、考えるだけで今からワクワクします。

生徒たちの可能性は無限大です。その生徒たちの成長を楽しみに、今年度も「笑顔で会える学校」をめざします。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



## スローガン「笑顔で会える学校」について



「学校に来たら自然と笑顔になれる」。吉川中学校をそのような学校にしたいと考えています。毎日いろいろあります。生徒たちは朝、学校に登校するまでも様々な感情が起こることでしょう。生徒によっては、家族とけんかをして玄関を出てきた人やテストが不安で気分が重い中登校してくる人など。けれど、吉川中学校の門をくぐり、友達に会えば自然と笑顔になれる。また、保護者の方も、吉川中学校に来ると、

なん다가いつも元気になり、笑顔になれる。そして地域の方も、吉川中学校の前を通ると元気になる、校門をくぐれば笑顔がこぼれるなどなど、生徒も保護者も地域の方も、「吉川中学校に来ると笑顔になれる」、そんな学校にしたいと考えています。そして、私たち教職員も、吉川中学校で働けることに喜びを感じ、笑顔いっぱい日々を過ごしたいと思います。

みんなで、「笑顔で会える学校」をつくっていきましょう！



## ～「めざす子ども像」について～

### めざす子ども像

- 【自律】自ら考え、判断し、行動する
- 【思いやり】まわりの人を大切にする
- 【柔軟】変化に柔軟に対応する



## 『自律』について



『自律』とは自分を律すると書きます。生徒たちには、自分を律するということを常に意識して行動してほしいです。もう少しわかりやすく説明すると、他人に任せたり、頼りっぱなしになるのではなく、常に「**自分で考えて、判断し、行動する**」人間になってほしいと思います。

自分で考え、判断し、行動する中で、時には失敗もするでしょう。困難にも出くわすでしょう。本当に苦しい時は、周りの大人や友人に助けをもらうことも必要です。けれども、生徒たちには、できる限り自分の力で乗り越える努力をしてほしいのです。そうするうちに、自分でできることが増えて、自然に自分自身に自信が持てるようになり、自分のことが好きになっていきます。そして毎日が楽しくなり、笑顔が増えていくと思います。そんな『自律』した生徒があふれる中学校になってほしいと願っています。

## 『思いやり』について



今、世界に目をやると、新型コロナウイルスの対応はようやく落ち着いてきましたが、戦争や紛争が後を絶ちません。今こそ私たち人間が一番大切にしなければならないこと、それが「思いやり」だと思います。

生徒の中にも、いろんな人がいます。学校という場は、多くの人間が生活を共にする場です。馬の合う人、波長の合う人もいれば、そうでない人もいます。ムツときたりカチンときたりすることもあるでしょう。人間なので。しかし、だからと言って、人を傷つけるようなことははいけません。そして、自分も人間なので、完璧ではありません。人にはそれぞれ個性があり、得意なこともあれば苦手なこともあります。互いに完ペキではない、表現は的確でないかもしれませんが、「不完全な人間」同士です。互いの苦手なところや不得意なところをとらえ、攻撃しあうような残念で悲しい関係にはしたくないです。互いの苦手な部分や不得意な部分も認め合い、攻撃ではなく補い合うこともできるのが人間だと思います。そういう温かい関係作りをしていきたいものです。そこで大切になってくるのが「思いやり」です。互いを思いやる気持ちを常に持つことで、円滑な人間関係を築くことができ、一人ひとりが安心して自分自身を出すことができる、居心地のよい集団を築くことにつながると思います。



生徒たちが「思いやり」を意識するだけで、今以上に安心できて、居心地のよい学校になっていくはず。そして、一人ひとりの生徒が、安心していろいろなことにチャレンジし、自信を深めていくことで、元気になっていくと考えます。「思いやり」を大切に、常に意識して行動できる人になってほしいです。

## 『柔軟』について

「変化に柔軟に対応できる吉中生」。これまで数年間にわたり本校のめざす生徒像として掲げられていた目標です。あらゆる変化にも柔軟に、しなやかに対応できる人間に育ててほしいという願いが込められています。昨年度は、地域に出て行った「スマホ教室」でも、本校生徒の素晴らしい柔軟な対応力が発揮される場面がありました。



現代社会は多様な時代と言われています。また、ITの急激な進歩など、目まぐるしく速いスピードで変化していく時代に、たくましく生きていくために必要なのが、まさに「柔軟」な対応力です。そして、今、新型コロナウイルスがようやく落ち着いてきていますが、いつ何時、また新たな新型のウイルスが発生するかもしれません。そのような中でも、たくましく、力強く生きていけるように、生徒には育ててほしいです。まさに今、生徒たちに身に付けてほしいのが「柔軟」な対応力です。「柔軟」な対応力を身に付け、多少の困難もしなやかに乗り越えるたくましさを身に付けてほしいと考えます。

## ～教育目標について～

### 「自らの道を、自信を持って 切り拓くことのできる生徒の育成」



吉川中学校の長年の課題ともいえるべき、生徒の「自尊感情」や「自己肯定感」「自己有用感」の低さ。周りから見れば、輝くものをいくつも持っているのに、当の本人が、その良さに気づいていなかったり、自信を持てていなかったり。そして周りの目をとても気にする傾向があり、失敗することを極度に恐れる。みんながみんな、そうだとは言いませんが、総じてその傾向が強いです。この傾向が強いか、積極的に物事にチャレンジしようとする力も弱く、自分の持つ可能性を伸ばしきれていない。とてももったいないと思います。

よって、目標ではその傾向を打ち破るべく、「自信を持って」という言葉を入れ、「自分の道を切り拓くことのできる生徒」という文言にしました。本校の生徒たちは、これに尽きると考えています。今より自分自身に自信を持てるようになり、自分で自分のことを認められるようになれば、今の何倍もの輝きを放つよ

うになると考えるのです。



学校は「学ぶ場」「教わる場」であります。生徒は、知識も乏しいし、経験も少ない。だから学ぶために、教わるために学校に来ているのです。そのような生徒だからこそ、わからないことだらけで当然です。失敗も当然です。もっと「わからなくてOK」、「失敗してもOK」という雰囲気を学校中につくりだし、失敗を恐れず発言したり、チャレンジしたりする雰囲気を作り出したいと考えます。そして、失敗しながら、次は失敗しないためにどうするかを生徒自身に考えさせ、教職員はそのサポートをする。サポートであって、決して教え込んだり、道を指し示したりするものではありません。希望は与えても、道を指し示すのでなく、自分で見つけ出させる。授業においても、生活面の指導においても、教職員はそのスタンスが必要と思います。

生徒たちには、先に示した「自律」を意識させ、自分でつかみ取る経験を積みせたいと考えます。そして、生徒の頑張りを見逃さず、タイムリーにほめ、また良さを伝えることを積極的に行います。そういう営みを繰り返せば、生徒は間違いなく自分自身に自信を持つようになり、次にチャレンジする意欲を沸かせ、失敗も繰り返しながら、自分自身でたくさんのことをつかみ取り、自信を膨らませながら、自らの道を切り拓いていくと考えるのです。

「自らの道を、自信を持って切り拓く」。そのような生徒の育成をめざしていきます。

